

気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館のリニューアルに協力しました（2020/06/02）

テーマ：震災伝承、津波工学

場所：気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館（宮城県気仙沼市）

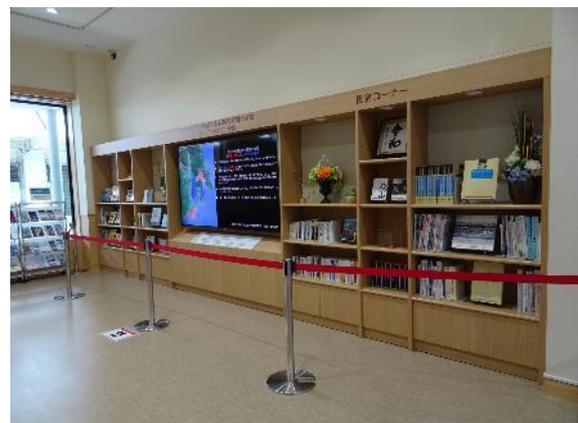
新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、2020年4月6日（月）以降臨時休館していた気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館（当研究所・気仙沼分室も入居）が、6月2日（火）より館内を一部リニューアルし再開しました。

再開に伴い1階展示コーナーには、新たに今村文彦所長・教授（災害リスク研究部門）が提供した「東北地方太平洋沖地震による津波の発生と挙動」（シミュレーションCGアニメーション）を視聴できるデジタルサイネージが導入されました。2011年3月11日の巨大地震により発生した津波の様子を解析し、時間毎に押し波、引き波がどのように陸地に伝播しているかがわかりやすく2次元・3次元アニメーションにより表示されています。通常の映像コンテンツに比べて、短時間で津波の発生の様子を知ることができるため、来館者の方も足を止め見入っている様子でした。デジタルサイネージの設計・デザインは、館スタッフの皆様と気仙沼分室担当教員の佐藤翔輔准教授（人間・社会対応研究部門）が協働で行いました。

また、伝承館での新型コロナウイルス感染症予防対策については、（公財）日本博物館協会策定の「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に準じて取り組み、また、スタッフから来館者の方に対する説明・誘導のために必要な発話、及び来館者の方からの質問に直接対応する機会を減らすために、スマートフォンによる音声ガイド（館内数か所にQRコードを設置）が導入されました。各所に密が避けられるような対策が施されています。



デジタルサイネージ（1F 展示コーナー）



1F 展示コーナー



音声ガイド案内板（遺構内）



館内の新型コロナウイルス感染症対策
（館内各所に設置）